発　行　所
長野県保険医協会
〒380-0928長野市若里1丁目-5-26
電話　026（226）0086
FAX　026（226）8698
E-mail　nagano-hok@doc-net.or.jp
年間購読料 3,600円（会員の購読料は会費に含まれています）

長野保険医新聞

2017年（平成29年）6月25日
No.４３６（毎月1回25日発行）
（1990年6月22日第三種郵便物認可）

主な記事

支払基金審査委員名簿公開、窓口完全無料化に向けて…2面、27年度歯科個別指摘事項⑤…3面、保険かわら版、理事会便り…4面、協同組合ニュース…5～6面

憲法25条を守る5.18共同集会

社会保障・社会福祉は国の責任で

５月18日、東京日比谷野外音楽堂において「憲法25条を守る5.18共同集会」が開催され、県保険医協会から市川副会長、河原田、林各常任理事と事務局２名が参加した。この集会には医療・介護従事者をはじめ高齢者、障がい者など全国から約3,500人が参加。立場や分野を越えた大規模な集会となった。

弁護士で生活保護問題対策全国会議代表幹事の尾藤廣喜氏は基調報告で、この国に広がる貧困と格差はすさまじい勢いで進行し、特定の世代や性別に限られた問題ではなくなったと指摘。重すぎる自己負担、高額で支払えない保険料など福祉の後退が著しい一方、大企業には優遇税制を施し、一握りの富裕層に富が集中する結果を招いているとした。また、いま政府は防衛費の増額や改憲などではなく、憲法25条の実質化に取り組むべきであり、その実現のためにはさまざまな立場の人達がお互いの主張を交流し連帯していくことが必要だと呼びかけた。

本来は国の責任であるはずの社会保障を「自己責任」と切り捨て、自治体や地域に押し付ける政策では国民のいのち、くらしを守ることはできない。人間らしく生きることのできる社会保障・社会福祉制度を求め、大企業や富裕層へ応分の税負担を課すことや所得の再配分による財源確保を訴えたこの集会では、社会保障抑制の流れをくい止めようと各分野によるリレートークが行われた。

全日本民医連の山本淑子事務局次長は、「無保険状態による手遅れ死亡事例だけでなく、最近では正規の保険証があっても窓口負担を払えずに受診を我慢するケースがあることも明らかになっている」とし、「誰もが保険証１枚でお金の心配なく受診できる制度がみんなの命を守る。権利としての社会保障の理念を実現する政治に変えていこう」と訴えた。

最後に、生きる権利が政府の手で奪われようとしている今、日本中のあらゆる分野の人々とつながりたたかいの共同の輪を広げ、憲法が生かされた社会を私たちの手で実現させようとの集会アピールを採択した。

会長 鈴木信光氏逝去

長野県保険医協会の会長鈴木信光氏が去る６月１日逝去された。74歳。

昭和44年に日本歯科大学を卒業、昭和59年に上伊那郡辰野町の現在地に開業、以来33年間地域医療に貢献されてきた。

保険医協会では平成11年４月より理事、平成12年４月より副会長、平成18年４月より会長となり、11年間会長を務められた。

協会の活動や勉強会に積極的に参加・推進し、特に会長に就任されてからは国会議員への要請のために精力的に衆参議員会館に足を運ばれた。また、医療問題のみならずTPP反対や脱原発、平和憲法を守る活動など諸団体との連携にも尽力していただいた。

告別式は６月２日診療所近くの、ふれ「愛」空間セイホールにて行われ、協会役員・事務局も参列した。

今後は副会長の宮沢裕夫先生が2018年３月まで会長代行を務める。

6・1中央要請行動

誰もが安心して受けられる医療の実現など求め陳情

６月１日、保団連の中央要請行動で各県選出国会議員への要請懇談が行われ、長野協会からは市川、宮沢各副会長、河原田、林各常任理事、事務局２名が参加。地元選出議員に対し陳情を行った。藤野保史衆議院議員、武田良介、井上哲士各参議院議員に面会のほか、議員秘書を通じて要請書を提出した。要請項目は①誰もが安心して受けられる医療、介護の実現、②共謀罪の創設を含む組織犯罪処罰法改正案の廃案、③住民税額決定通知書への個人番号記載の廃止の３点。

藤野議員（右）に要請書を渡す宮沢副会長（中央）と林常任理事（左）

今年２月より呼びかけてきた「今こそストップ！患者負担増」署名（以下、「患者署名」）の長野協会分1,662筆は杉尾秀哉参議院議員に、また、現在取組み中の「保険で良い歯科医療」請願署名（以下、「歯科署名」）568筆は篠原孝衆議院議員にそれぞれ紹介議員を依頼し、承諾を得た。患者署名は３月23日の中央要請行動での提出分と合わせて2,500筆にのぼり、昨年実施の患者署名1,603筆を大きく上回った。ご協力いただいた会員ならびに患者の皆様に深く御礼申し上げたい。

患者署名15万筆 歯科署名３万筆積み上げる

昼から患者署名および歯科署名の提出集会が開催され、全国の保険医協会・医会などから約230名が参加した。患者署名は全国から約15万筆、歯科署名は約３万筆が集約され、参加した医師・歯科医師が駆け付けた議員に手渡した。この日は13名の各党議員が集会に参加。署名を受け取った議員からは「重いですね」と驚きの声が上がった。

フロアからは地域での署名活動に取り組んだ参加者も発言。埼玉県「利根地域の医療・介護・福祉を良くする会」代表世話人の渡辺浩明氏は、義理の父親が少ない年金生活の中で受診を我慢した末救急搬送されたという経験から、「なぜ必要な医療を受けることをためらわないといけないのか」と疑問を投げかけた。

山梨県の「保険適用の拡大を願う会」は、学校検診で歯科矯正の必要を指摘されながら、保険適用外のため矯正治療を受けられない子どもが多くいるとし、県独自の制度として歯科矯正の保険適用実現を目指している。同会の小尾直子氏は、今後は個人で3000筆を目標に歯科署名に取り組み、県制度として歯科矯正の保険適用が実現できたら次は全国に広めていきたい、と意欲を見せた。

歯科署名は今回の提出集会をスタートアップ集会と位置づけ、11月末の締め切りに向けて長野は１万筆を目標に取り組む。歯科医療機関だけでなく、医科の医療機関にも協力を呼び掛けている。安心して受けられる歯科医療の実現のため、会員の皆様には引き続きのご協力をお願いしたい。

また、野口副会長より診察室の机の隣に署名を置き、診察の際に署名を依頼すると皆快く署名してくれたので、皆さんにも参考にしてほしいと報告があったので紹介したい。

診察机の隣に署名を配置

鶏声

某大国の代表が、よりによってなんでツイートなのかわからないが、人心を惑わすような発言が飛び交って、いつ私たちの生活に飛び火してくるのか、まったく不安な今日この頃である。◆とは言え「忘れてる、忘れたことさえ、忘れてる」日常で、あまりに身近なことしか関心がなくなってきた。50年前には、子供のむし歯はどうでもよかった。元気に暗くなるまで外にいてくれたら、親はそれ以上を望まなかった。30年ぐらい前から、そこは予防しなきゃとか、親がしっかりしろとか色々やかましくなってきた。◆しかし最近は、ストレスで虫歯ができる時代である。「ストレスと、言えば何でも、許される」とも思ってないが、ある日突然、歯と歯の間に穴が開くのである。「赤染で、見えぬ汚れが、歯を壊す」口の中で様々なストレス情報が得られることがわかってきている。「ヘルペスは、危機を感じて、お引っ越し」とか、「アミラーゼ、消化以上の、危機管理」といった唾液検査もあるが、まさしく「よく寝れる？早く起きれる？口にでる」状況は正直な現象である。◆子供もロコモティブで小学校から跳び箱がなくなっていく時代である。「歯亡（ほろ）び舌存（そん）す」国家試験が現状では足切りとなり下がって、柔軟に人を診ることができなくなってしまいそうで、それは北のほうから飛んでくる飛行物よりも怖い。（Z・T）